

世界の話題

ドイツ

40代で祖母となったAさんは、新聞記者。なにかと孫2人の面倒をみるだけでなく、医者のお卵である娘夫婦を経済面でも支援する。「私たち祖父母がまだ働いているからできること」と多忙な生活の中でも、育児のために仕事を減らし、自分たちの収入が減るのは避けたいところだ。

孫の育児を援助する「働く祖父母」の役割はここ数年、議論されてきたが、最近、家族大臣は最長3年の「働く祖父母の育児休暇制度」導入を検討中と発表した。育児期間中の祖父母の雇用の確保や孫の子守をする人の料金の非課税などを盛り込んでいる。

この制度が導入されれば、全国にいる30万人の祖父母のうち、1割近くが制度を利用すると推定される。そして、毎年4千人以上にもものぼる未成年の母親たちが、学業や職業訓練の過程を中断することなく社会生活を送れるよう支援するものとなるという。

祖父母にも 育児休暇を



もっとも、子育てを巡っては、20年もの間下がり続ける出生率や少子化にもかかわらず託児所やベビーシッターが足りないなど、ほかにも改善すべき点が山積している。これまで政府もさまざまな政策を導入してきたが、なかなか出生率が上がらないのが実情だ。

「支援策がなかったら、さらに出生率が低くなっているはず」と連邦統計局は分析するが、祖父母の育児休暇の導入で、出生率の下落に歯止めをかけられるか注目される。(福田 直子)